

## 歩こう会：歴史のまち 宇治散策記



JR 宇治駅

10月3日、私は「歩こう会」に参加するため京都府の南部にある宇治市を訪れた。「歩こう会」とは、文字通り、「さあ、歩きましょう」を意味している。これは伊藤忠社友会の中で歴史と郊外散策を愛好する者のサークルである。午前10時に40人の社友がJR宇治駅前に集合した。そこでは宇治観光ボランティアガイドクラブの3人のガイドさんが私たちを待っていた。ところで、宇治市は京都府の中で人口の最も多い京都市(145万人)に次いで2番目の18万人の人口を有している。宇治市が全国的に有名なのは、なによりもまず、上質の宇治茶の栽培地として、である。



茶畑



美味しい宇治茶

まず私たちは茶舗「中村藤吉本店」を訪れ、宇治茶を試飲した。それから宇治橋通り商店街を歩いて宇治川に架かる宇治橋に向かって歩いた。通りに沿って多くの茶舗が営業していた。



茶舗 中村藤吉本店



宇治橋通り商店街

しかし、その中で最も由緒ある茶舗は「上林春松本店」である。それは450年にもわたって代々受け継がれてきている。茶舗の名前は16世紀の末に茶業に従事し始めた創業者の姓名である。彼は大の茶会好きの豊臣秀吉の庇護を受けた。その後、江戸時代になって第三代将軍・徳川家光は将軍家への宇治茶の納入を春松に一任した。毎年、宇治から江戸（東京）へ茶壺に入れられた宇治茶が運搬される様は「御茶壺道中」と称された。現在の上林春松は直系の子孫で15代目である。茶舗と並んで上林記念館があり、歴史的な文書や茶道具、そのほか展示されている。



茶舗 上林春松本店



上林記念館

そのあと、宇治橋西詰に到着した。近くには「源氏物語」の作者・紫式部（973-1031?）の像が建てられてある。小説は54帖から成り、45帖から54帖に至る10帖、いわゆる「宇治十帖」においては宇治市がその舞台となっている。このため、宇治はこの小説の舞台としてもたいへん有名である。



宇治橋を背景に宇治河畔にある紫式部の像

そこからさらに私たちは平等院の表参道を歩いた。平等院は 1994 年にユネスコの世界文化遺産リストに「古都京都の重要な文化財」（京都市、宇治市、大津市の 17 の寺社）の一部として登録されている。平等院は関白・藤原頼道が 1052 年に、その父である藤原道長の業績を称えて建立した。道長は平安時代（794-1185）の 10-11 世紀に栄華を極めた藤原一族の始祖である。私たちは 2001 年に平等院の敷地内にオープンした歴史博物館「鳳翔館」を訪れた。



平等院の鳳凰堂（国宝）



鳳凰

そこでは多くの文化財、梵鐘、仏像、鳳凰一対、その他が展示されている。平等院は仏教の経典をもとに想像された極楽浄土を具現化したものと言われている。

それから宇治川の中州「塔の島」へと歩いていった。そこには 1286 年に建てられた 13 重の石塔がある



喜撰橋を渡って中州・塔の島へ



朝霧橋を渡って宇治神社へ

さて、12 時半、昼食の時間だ。朝霧橋を通って宇治川を渡った。河畔のレストラン「福寿園 宇治茶工房」で昼食をとった。抹茶、宇治茶、茶そばなど、お茶を使った料理をいただいた。グループの何人かは茶葉から抹茶を作る「抹茶づくり」を体験した。

昼食後の 14 時、宇治神社を訪れた。この神社は 15 代・応神天皇の三男・菟道稚郎子命（うじのわきいらつこのみこと）を祀っている。彼には兄がいたが、天皇は弟を次の天皇に指名した。弟はこれを拒み、兄に天皇になるように頼んだ。しかし、兄もこれを断った。結局、弟は、兄が否応なく第 16 代の天皇（仁徳）になるように配慮して、自ら命を絶った。



宇治神社の鳥居



宇治神社の本殿

宇治神社からほど近い所に「世界遺産の古都京都」の一つである宇治上神社がある。それは平安時代の 1060 年に創建された。これら二つの神社はもともと菟道稚郎子命に関連した二社一体であったと考えられている。



宇治上神社の鳥居



宇治上神社の本殿（国宝）

宇治上神社の本殿は国宝であり、日本の神社の中で現存する最古の建築物である。神社は第15代・応神天皇、第16代・仁徳天皇、そして菟道稚郎子命を祀って御神体としている。

このあと朝霧通りと早蕨（さわらび）の道をたどり源氏物語ミュージアムへと歩いた。途中に「宇治十帖のモニュメント」と与謝野晶子（1878-1942）の歌碑が立っていた。情熱の歌人・晶子は源氏物語をこよなく愛し、それを現代語に訳した（「新訳源氏物語」1912-1913）。



宇治十帖モニュメント  
「匂宮（左）と浮舟」（第七帖）



与謝野晶子の歌碑（短歌10句）

さあ、いよいよ源氏物語ミュージアムにやってきた。それは京阪電車の宇治駅に近い宇治橋東詰からほど近いところに1998年にオープンした。ミュージアムの中では「宇治十帖」の世界が展開されている。源氏の子・薫宮と源氏の孫・匂宮が、女好きだった源氏と同様に、宇治で女性をめぐって三角関係を繰りひろげる。中の劇場では20分間の映画が上映された。当時の貴族男性や女性がいかに暮らし、交際したかを知ることが出来て面白かった。紫式部って、なんと

すごい人なのだろう。11世紀初めにこのような長編の面白い小説を書いたとは。また、10世紀にわたる期間に多くの戦争があったにもかかわらず、この作品の54帖のすべてが失われることなく今日あるのは驚きだ。私たちは作者と作品を誇りに思う。これにはノーベル文学賞が授与されてもよいのではないか！



源氏物語ミュージアム

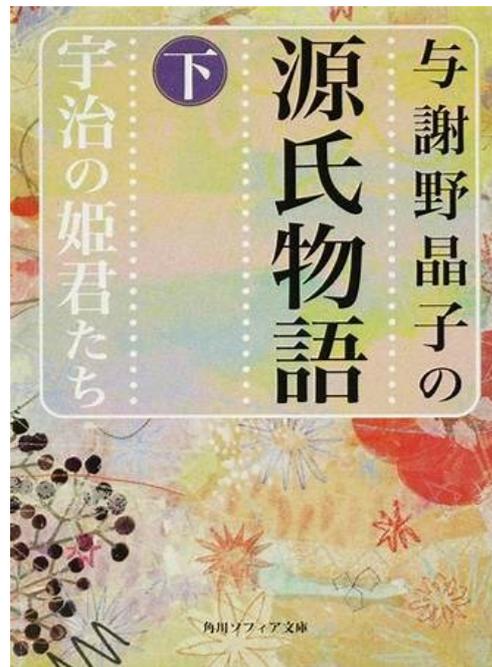


貴族女性の生活の展示



紫式部の短歌

(めぐり逢ひて 見しやそれとも  
わかぬ間に 雲隠れにし 夜半の月かな)



与謝野晶子の現代語訳「源氏物語」

私たちは歴史の町・宇治の名所訪問を楽しんだあと、宇治橋東詰のすぐそばに

ある 1160 年創業の歴史的な茶屋「通園」の前で午後 4 時に解散した。そのあと、「通園」で友人と一緒に休憩し、伝統的なメニュー「抹茶と抹茶団子」を賞味したのは言うまでもない。たいへん充実した一日であった。



茶屋「通園」



抹茶と抹茶団子

(完)

2023 年 10 月 12 日 記

谷岡 諭  
伊藤忠社友会 副会長  
(西部地区担当)